

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 東京勤労者医療会 代々木病院 1部60円
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

復興進むが、故郷に戻れず… 福島を忘れないで

東日本大震災



2015年12月に撮影。富岡第二中学校体育館。震災発生直後2011年3月11日に避難所となった。翌日には原発事故で避難者がここから移動した。



富岡駅近くの震災発生時刻をさしたまま止まった時計。現在は県立福島博物館に展示 (2014年11月撮影)



富岡町夜ノ森地区にある帰宅困難区域との境界。同じ町内なのに分断されている (2013年3月撮影)

千駄の萱は今回お休みいたします。



▶竜田駅(檜葉町)の郵便ポスト。避難指示が解除後、テープなどが外された。(2015年9月撮影)

▶檜葉町前原の廃棄物置き場。集められた冷蔵庫とテレビ。2700世帯中1000世帯が壊された。(2015年9月撮影)

震災から5年が経過し、福島では、着実に進んでいる部分と、5年間「時間」が止まったままの部分とがあります。かつて16万人以上いた避難者は10万人を切り、避難指示解除準備区域とされ

「進んでいる部分と時間が止まった部分」

2011年3月11日の東日本大震災では、地震、津波、火災、そして原発事故に襲われた福島県。住みなれた地域に戻れず、避難先で定住する人も出てきています。また、補償金などをもらっていることで、避難者に対する差別や嫌がらせがあります。震災から5年がたった福島県の現状について、福島民医連の浜通り医療生活協同組合の組織部の工藤史雄さんに報告していただきました。

工藤史雄さん



た田村市や川内村の一部、そして檜葉町の避難指示が解除されました。いわき市内の仮設住宅

一方で、復興公営住宅に入居したら、果たしてそれで「生活は再建した」と言えるのでしょうか。あるいは避難指示が解除されればもう故郷に戻れるのでしょうか。現実には、復興公営住宅で新しいコミュニティ

「檜葉町の帰還者は5%未満」

も、復興公営住宅への移転が進み、ずいぶん寂しくなってきました。海岸線は高さ7メートルの巨大堤防が覆い、各所で住宅建設や大型公共事業が進められています。私たちの住むいわき市内は、ほぼ震災前の生活を取り戻しています。着実に復興が進んでいると見ることができません。

「生活、将来への展望が描けない」

「避難者には賠償金が出るのでしょうか」。確かにお金は支払われていても、それでいわき市内に新居を求めても、「なんとなく後ろ指さされているようだ」と地域に受け入れられない人たちがいます。賠償金はもらっているものの、漁に出ることができ



津波によって家屋が流され土台だけ残っている (いわき市豊間)。花の絵が土台にプリントされている。(2013年3月撮影)

「私たちの切なる願い」

ず、パチンコや酒におぼれる漁師たち…
もっと言えば、最も汚染のひどい帰還困難区域に指定された地域では、除染すら始まっておらず、時間が止まったまま。元の自宅に帰るといっても、夢を描けず、拳の果てにその土地を除染廃棄物の中間貯蔵施設へと追われる始末。自分のこれからの生活、将来への展望を描くという自己決定権を

▶富岡駅前の個人が建てた震災慰霊碑。この後、富岡警察署の裏に移転された。(2015年9月撮影)

